

教師に求められるもの

◇ 以前、教師というものは「教えること（ティーチャー的役割）」が仕事でした。極端に言えば、「教えること」だけでできていればよかったです。既成の知識・技能を教える力とも言い換えられます。明治以降、教え込む授業が中心であった時代に必要とされていたものです。

ところが、今日、問題解決的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を発見して新たな知識や技能を創造したり自己の生き方や人間としての在り方を追求したりする資質や能力を身に付けさせる授業が求められる時代になってきました。きっと、今、教師に求められている役割って変わってきたんだろなあと思っていた時、教育調査研究所寺崎千秋氏がまとめられていた論文の中に、それに関するものを見つけました。

<Facilitator（ファシリテーター）的役割>

ファシリテーターとは、会議やミーティングなど複数の人が集う場において、議事進行を務める人のことである。中立な立場を守り、参加者の心の動きや状況を見ながら、プログラムを進行していく役割。教育の場に当てはめると、**子どもの思いや願い、学習課題、その実現解決に向けた計画や取組を引き出して支援していく役割**ということ。

<Coacher（コーチャー）的役割>

コーチャーとは、「傾聴」「質問」「承認」等のコミュニケーション技法を用いて、子ども自身の意欲・能力を引き出し、「自立」を支援することである。教育の場面では、**学習過程での子どものつまずきや困難に対して助言し、自己実現できるように援助等を行う役割**と言える。常に変化する状況に素早く対応し、そして、自ら変化を巻き起こしていく能力ともいえる。

<Counselor（カウンセラー）的役割>

カウンセラーとは、依頼者の抱える問題・悩みなどに対し、専門的な知識や技術を用いて相談援助を行う人のこと。教育の場に当てはめると、**子どものつまずきや困難な場面での相談にのり、精神的な支えを行う役割**であるといえる。生徒指導の場面が必要になってくる役割とも言える。

<Coordinator（コーディネーター）的役割>

コーディネーターとは、直訳するといろいろな要素を統合したり調整したりして、一つにまとめ上げる係のこと、また、そういう職業ということである。教育の場面では、**学校内外の人々や機関と連携して子どもが課題を解決できるよう支援や指導体制を整え**

る役割だと考えられる。外部人材などを活用する際に必要とされる。

<Developer (ディベロッパー) 的役割>

ディベロッパーとは開発業者のことで、大規模な宅地造成やリゾート開発、再開発事業、オフィスビルの建設やマンション分譲といった事業の主体となる団体・企業または人のことである。教育に当てはめると、**学習に必要な学習材の開発や選択、作成を行う役割**だと考えられる。教材開発をする際に必要とされる力である。

参考：教育調査研究所 寺崎氏の論文

◇ これからの教育界では、単に「教える」ということだけでなく、このような役割を併せ持って子どもや親や教材に対応していかないといけなくなっているのと考えられます。本来なら、このような役割を果たすには、専門の知識が必要となるため、特別な研修を受けないとできないわけですが、ここにあげているように、「的な役割」ということで、そのような役割を果たすことができるようになることが求められていると理解してほしいと書かれていました。

私たちがやらなければいけないことを見直すきっかけになるんじゃないかな、と思っています。

文責：スギタ